

# 令和 2 年度業務執行報告

[令和 3 年 6 月 1 日 HP 掲載]

## I、法人運営の概要

## II、事業執行の内容

- ・教育目標及び基本姿勢
- ・当該年度の事業概要
- ・事業の目的計画と実施
- ・実施計画の進捗状況等
- ・認定こども園事業
- ・職員研修（園内、園外）
- ・情報発信の状況

## III、学校評価について

- ・自己評価結果の集約内容
- ・学校関係者評価の内容

## IV、財務状況の内容

学校法人内丸学園 幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

## 令和2年度・事業報告書

### I 法人の概要

- 1、法人名： 学校法人内丸学園  
 2、理事長： 坂本 洋  
 3、住所： 岩手県盛岡市中央通1丁目6-47  
 電話：019-622-2301 Fax: 019-622-1819

#### 4、設置する学校

名称： 幼保連携型認定こども園 盛岡幼稚園  
 認定こども園（認定月日：平成19年2月27日）  
 類型：・幼稚園型（当初は認可外保育施設併設）  
           ・幼保連携型（平成22年4月1日認定）変更  
           ・      〃      （平成27年4月1日新制度移行）  
 備考：22年度から0歳児～2歳児は保育所認可【定員21名】、23年度【定員30名】となる。運営費委託料計上は厚生労働省所管（盛岡市保健福祉部）。  
 平成27年4月1日から子ども・子育て支援新制度により、従来の幼稚園・保育園が単一施設となり、3号子ども定員30人から42人へ変更。幼稚園学校教育部分は4学級105人。内訳1号子ども定員45人、2号子ども60人へ変更。合計：147人。  
 令和2年度から3歳以上児の定員変更：1号子ども30名。2号子ども75名とする。

#### 5、学級編成と定員並びに実績（認定こども園定員：147名）令和3年3月1日現

項	5歳児学級	4歳児学級	3歳児学級	計
定員	1学級	1学級	2学級	4学級
	35名	35名	35名	105名
令和2年度実績	1学級	1学級	2学級	4学級
	33名	31名	34名(満3歳0名)	98名
	保育【0歳～2歳 定員42名】0歳：9, 1歳：18, 2歳：18			45名

計：143名

#### 6、認定こども園受入れ実績状況（認定こども園定員：147名）令和3年3月1日現

入園対象の認定	3～5歳児(満3含)	0～2歳児	計
1号	24名	/	24名
2号	74名	/	74名
3号	/	45名	45名
計	98名	45名	143名

## 7、法人役員・教職員の概要

理事 7名：理事長1名、理事長代行者1名、理事他5名

(理事長：坂本洋、理事長代行者：松本静毅、理事：坂本信行、荒木田一男、  
関 雅彦、中原真澄、黒澤淳子)

評議員 15名：寄附行為23条(1) 4名、23条(2) 3名、23条(3) 8名

開催内容：理事会5回、評議員会2回、監査会・外部2回、法人監事2回 計4回

理事会	① 5月23日、②8月11日、③10月28日、④1月23日、⑤3月26日
評議員会	① 5月23日、②1月23日、
監査会	① 5月18日、②5月21日(法人)、③1月25日、④2月3日(法人)

学校関係者評価委員会：年1回(令和3年3月19日) 評価内容は別添のとおり。

苦情解決第三者委員会：年1回(令和3年3月19日) ”

教職員 36名：理事長1名、幼稚園長1名、主幹保育教諭1名、指導保育教諭1名、  
保育教諭15名、保育教諭(非)9名、保育助教諭(非)1名  
看護師(非)1名、栄養士2名、調理師1名、調理員(非)1名  
事務職員2名、

## II 事業執行の概要

### 1、教育目標及び基本姿勢

#### (1) 教育目標

生命力にあふれる子ども達が、愛情と活力と創造に満ちた生活をめざし、幼児の心身の発達に応じた豊かな体験が得られるよう教育環境を整え、一人ひとりの心情・意欲・態度の発達を養い、基礎的人間性の土台となる、生きる力や心の教育の育成を目標とする。

また、東日本大震災による被害状況が、かつて経験したことのない甚大な被災となり、これまでの危機管理対応を根幹から見直すこととなり、かけがえのない子ども達一人ひとりの命の大切さを改めて教育の根底に据え、安心安全な環境づくりに努めること。

#### (2) めざす子ども像

**園 訓：** つねによろこぶべし (いつもにこにこ)

- 健康でたくましい子ども
- よく聞きわかり行動する子ども
- すなおに感じ豊かに表現する子ども
- 心身ともに安定した生活を送れる子ども
- 神と人ともに喜ばれる子ども

### (3) めざす教師の役割像

- 幼児一人ひとりが、より豊かに遊び、学ぶ生活を過ごせるよう援助する
- 集団生活の中で生きる力、喜びの広がりや育つ環境づくりに配慮する
- 自律と協同の育ちに配慮し、協同的な遊びや学びの環境構成を工夫する
- 総合的な教育と保育の一貫した幼児教育の保育計画づくりに配慮する

### (4) 教育目標達成のための基本姿勢

- 型にはめない自由な個性の伸長 (個性重視)
- 遊びの十分な保障と充実感 (満足感と承認充足)
- 感性や情緒性豊かな環境づくり (夢のある環境)
- 愛情に満ちた子どもとのかかわり (愛着心の育成)
- 善悪の判断基準の適切な指示 (社会行動規範の明示)

## 2、当該年度の事業概要

運営基本方針に基づき、教育目標の達成に努め個性豊かな教育を実現した。

特に改訂教育・保育要領に基く教育指導計画の実施は、本年も引き続き幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を意識した実践に努め、0歳児から5歳児までの一体的全体指導計画を作成する中で園内・園外研修で培った内容の教職員全員の共通理解を深め実践に生かすことに努めた。

しかし、年度当初より新型コロナウイルス感染が全世界的にまん延し、国内でも非常事態宣言が発せられ感染防止行動自粛規制等で例年の教育活動に支障が出た。岩手県内でも7月まで感染者発症が無かったものの、その後は他県同様の状態となり園内における3密回避、手洗い、うがい、消毒の徹底を図りクラスター発生の防止に努めた。

従って、例年実施の行事が中止や縮小の止む無き事態となり、改めて子ども主体の諸行事の有り方検討の機会となった。なお保護者の全面的理解とご協力のもとに実施された。

#### ◎ (主な行事等)

4月：第113回入園式、始業式、JRC登録式、5月：避難訓練、健康検診、タッピングの畑、6月：歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診、花の日礼拝、7月：薬剤師検査、七夕、プール遊び、お泊り会(内容の縮小)、8月：夏休み、9月：運動会、歩き遠足、10月：タッピングの畑芋ほり、作品展、11月：収穫感謝祭、焼き芋会、トトロランド、小学校体験学習、12月：クリスマス礼拝、冬休み、1月：ゴミとリサイクル教室、プラネタリウム見学、鮭の赤ちゃん飼育、2月：保育参観、卒園を祝う会、3月：お別れ会、修業式、第113回卒業証書授与式 (各月ごとの避難訓練実施した)

◎ (園外イベント参加) 本年度は参加自粛

#### ◎ 【1号認定・2号認定園児数状況】

3月末在籍：98、卒・退園児数：33、在籍園児数：65 (A)

3月末入園申込み数：27、新入園児数：27 (B)

次年度期首数(A+B)：92名

#### ◎ 【3号認定園児数状況】

3月末在籍：45、卒・退園児数：18、在籍園児数：27(A)

3月末入園申込み数：12、新入園児数：12(B)

次年度期首数(A+B)：39名

◎ 幼保連携型認定こども園・盛岡幼稚園：次年度期首合計数：131名

### 3、事業の目的計画と実施

幼児教育の専門性資質向上及び幼児一人ひとりの育ちを保障する保育理念のもとに、ふさわしい教育環境をもって、幼児の心身の発達に応じた豊かな体験と感動に満ちた教育活動を計画立案し、加えて幼保一体化の認定こども園事業を積極的に取り入れた運営を実施した。

◎ 質の豊かな食育・給食提供のため、3号園児への自園給食調理機能の充実を基本とし、また1号、2号園児への完全給食提供のため給食調理室稼働の充実を図り、園児への食育指導の計画案を作成し実施した。

◎ また、個別的配慮を要する園児は保護者の強い要請により**2名**（精神発達遅滞1名、自閉症1名）の受入れとなり、健常児の中で持てる能力の成長に努めた。

◎ なお、教育課程外の預かり保育（家庭部保育）は、認定こども園事業実施の中で継続して実施している。詳細利用実績は下記記載5、の通り。

◎ 新制度移行の当園の経過は、認定こども園として、平成19年2月27日付けで岩手県第一号の認定。当初は幼稚園型であったが、平成22年4月からは、認可保育園として、0歳児を加え認可保育事業として実施した実績。子ども子育て支援新制度以降は、改めて幼保連携型認定こども園として、単一施設としての『盛岡幼稚園』を更に前進させている。

◎ 本年度の3号認定児の入園受け入れ実績は、令和2年4月初日在籍39名(0歳児:5名、1歳児:16名、2歳児:18名)と定員を下回る状況。新年を迎え令和3年3月には、在籍数45名(0歳児:9名、1歳児:18名、2歳児:18名)と定員(42名)を上回る在籍数で、特に0歳児6名定員のところ9名在籍となった。これは入園許可認定を行う盛岡市福祉行政当局から待機児童解消のための要請によるものである。

### 4、事業実施計画の進捗状況等

計画された教育・保育活動は、年度計画所期の目的を達し、個々人の発達に応じた生きる力や心の教育の育成並びに保育養護の向上に貢献した。

特に教職員の自己点検意識が高まり、客観的に自らの指導計画や子どもに向き合う姿勢並びに教職員集団の力として園内研修実施等発揮できる体制が確立されつつある。

なお、東日本大震災を経験し、改めて危機管理対応の見直しを行い、また新型コロナウイルス感染予防のマニュアルの徹底等により3密回避による教育活動の見直しを図り、子ども主体優先の行事となった。このことは保護者へも伝え共通理解を深め、ご協力の共有に努めた。

◎ 盛岡幼稚園 **教育実施日数**：年少クラス、年中クラス、年長クラス 40週

3歳児(193日)、4歳児(193日) 5歳児(198日)

◎ **保育実施日数**：・0歳児～2歳児 292日 ・3歳児～5歳児 292日

## 5、認定こども園保育事業（預かり保育）

### (1) 預かり保育推進事業の実績数

	満3歳児	3歳	4歳	5歳	計
2号認定利用児	0	24	25	25	74
1号認定利用児	0	1	1	1	3

3歳児から5歳児の月平均利用は77名（昨年73名）。その内1号認定児は3名。2号認定児は74名で全員標準時間利用児であった。なお、臨時的利用児は、月平均約3名の実績となった。

預かり保育の1号・2号児の保育指導状況は、臨時の預かり保育利用児を含め、3歳児、4歳児、5歳児各年齢児ごとグループに分けて各担当職員の掌握日課で実施した。

特に5歳年長児は6月以降の午後保育中の午睡を柔軟に取り入れた保育を行うこととし、幼小接続を意識したアプローチカリキュラムを考慮した処遇活動。また、早朝と延長保育は異年齢合同保育として行った。

また、土曜日保育利用は1号・2号児、年間利用実績数236人、月平均19.6人、週平均4.9人で異年齢合同の処遇であった。（3号児の保育は、別室の別処遇である）

◎年間開設日数：保育日数は年長児クラス198日及び、土曜日：延べ利用数236名、月平均19.6名（昨年317名、月平均26名）、春・夏・冬休みの実施を入れ292日開設した

◎子育て支援事業（トトロハウス）：週1回、年間開催回数22回、登録者延数：17組（昨年42組）、一回平均参加者数約4.3組（昨年6.8組）。【親子参加、費用無料、前日までに申込み】

(2) 子育て相談事業：相談件数は92件、一般：7件（昨年0件）、園児及び子育て支援事業参加者保護者：85件と、昨年の総件数85件に対し微増した。

・相談内容：しつけ・育児が46件(50%)、排便排尿が8件(9%)、発達・障害9件(10%)登園しぶり7件、トラブル・いじめ2件、その他12件（18%）等の内容であった。

・相談対応：継続観察32件(35%)、助言指導59件(64%)。面談相談が多く（8割）助言指導が6割強を占め、継続観察ケースは、しっかりと見守り以後の報告を丁寧に実施した。なお、本年は一般相談もあったが、在園児や子育て支援事業参加者の相談利用が主であった。

## 6、令和2年度 職員研修実績

### (1) 園内研修実施状況

\*研修テーマ 『子どもをとらえ、育ちにつなげるための記録について』

各年齢に適した記録のあり方について検討し、子どもの姿をとらえ、育ちにつなげていけるような記録にはどのような工夫があるのかを探る。

日 程	内 容	記 録
4月22日(水) 14時～	・ 昨年の園内研修の振り返り ・ 年間指導計画とポートフォリオの確認	瀧山
5月27日(水)	・ 合理的配慮が必要な子どもについて共通理解する。 ・ 個別の支援計画について	石田
6月24日(水)	・ ヒヤリハット事例から見える事故防止 ・ 年間保健計画、学校安全計画の見直し・検討	竹岡
7月22日(水)	・ 研究テーマについて、実際の記録の見直し・検討 「子どもをとらえ、育ちにつなげるための記録とは…」	齋藤(ゆ)
8月26日(水)	・ 理事長先生講話 「園内研修の次なる課題」	村松
9月23日(水)	・ 成長したエピソードを記録し、グループ間で子どもの育ちを話し合う	千葉
10月28日(水)	・ 3グループに分かれ、3名の子どもについて継続的に記録し、育ちや保育者の関わりについて話し合う	林崎
11月25日(水)	〃	高橋
1月14日(木)	・ 実技研修『赤十字幼児安全法講習(AEDの使い方)』 ホールにて20名の職員が参加	中村
2月24日(水)	・ 個別支援計画の報告と検討(Bクラス・つぼみクラス) ・ 今年度の研修の評価と課題	坂本

※非常勤職員の研修(年3回)実施。

5月14日(木) ①幼児教育の動向 ②今年度の方針と重点 等

11月25日(水) ①コロナ感染症予防対応 ②アレルギー児対応

2月17日(水) ①自己評価のまとめ ②園児の学びを育むための関わり

※園外参加研修については、復命書の回覧にて全職員で共有。

○この他にも職員間で話し合いの機会を設け、研修の機会とした。

- ・ 月案・週案の作成
- ・ 特別支援について
- ・ 研修参加報告
- ・ 活動や教材の理解と研究
- ・ 園内外の環境整備について
- ・ 学期毎の反省・評価 など

(2) 園外研修実施状況 ◎特別支援に関する研修会 □保幼小連携に関する研修会 ○その他

日程	研修会（主催者）	研修内容
6.2	○幼稚園等初任者研修講座 センター研修Ⅰ（県総合教育センター）	・講義「初任者に望むこと」 ・講義「幼児期の教育の現状と課題」等
6.27	○県連 第2回新任教諭研修会	・講義「指導計画、記録及び評価について」 ・講義「乳児保育の環境」等
7.4	○県連 第3回新任教諭研修会	・講義「乳児への適切な関わり」 ・講義「保育の環境、発達の援助」
7.30	○県連 第1回教員研修会	・講演「乳児の発達に応じた保育内容」 ・講演「命をはぐくむ食育」等
8.6	□盛岡市教育研究所公開講座	・講演「幼・保・小接続期の教育講座」
8.17	□岩手県幼稚園教育研究協議会	・講演「幼児教育と小学校教育における学びの接続を活かした教育課程の編成と、教育活動の在り方について」等
8.21	○県連 第1回経営セミナー研修	・講演「子ども子育て支援制度公定価格の見直しと処遇改善加算Ⅱの取り組みについて」等
9.8～ 9.10	○幼稚園等初任者研修講座 センター研修Ⅱ（県総合教育センター）	・演習「発達に応じた造形表現活動」 ・講義「保育に生かすカウンセリングの基礎・基本」等
10.16	○盛岡市保育所協議会研修 「食育・アレルギー」	・講演「小児感染症免疫とアレルギー疾患：基礎から病気まで」
10.20	○盛岡市保育所協議会公開保育 （なでしここども園）	・公開保育『『やってみよう』気持ちを大切に』
11.4～ 11.6	○幼稚園等初任者研修 センター研修Ⅲ（県総合教育センター）	・講義「指導要録の概要・記載の実際」 ・研究協議「幼児理解と指導援助の視点～保育参観に向けて～」等
11.13	◎盛岡市保育所協議会研修会 「障がい児保育」	・講演「障がい児保育の実践例～発達と適応に着目した幼児理解に基づく支援を考える～」
11.16	○幼児教育中核リーダー養成研修講座Ⅱ （県総合教育センター）	・講義「保育の質向上につながる保育者指針に基づいた研修の進め方」 ・演習「保育者育成指針に基づいた研修の企画」等
1.12～ 1.13	○県連 総合研修会	・講演「障がい児の理解と援助」 ・講演「組織目標の設定について」等
2.10	○岩手県教育研究発表会	・講演「新しい時代を拓くこれからのカリキュラム・マネジメント ～学校段階等間の接続の視点に立って育むしつ・能力～」等
2.12	□盛岡市障がい児教育推進協議会 交流 兼研修会	・実践発表「盛岡市厨川小学校 LD 等通級教室」 ・講演「愛着障がいの理解と対応」
*	○盛岡地区教員研究会	・分科会研修 2班『子どもの心を聴く』 6班『3歳未満児の生活と保育環境』

\*例年は毎月行っていたが、今年度はコロナ禍のため、不定期で開催された。



## 7、情報の発信の状況（公表・公開）

(1) 園報の発行：年4回発行。発行部数240部。法人及び園内情報。

送付先は、保護者（110部）、同窓生、関係機関他（130部）

(2) その他の情報発信

幼稚園便り(全世帯)：12回（毎月1回発行）、臨時便（コロナウイルス感染防止含む）

保育部便り(0・1・2歳児世帯)：12回（毎月1回発行）

学年便り：年長児クラス16回、年中児クラス12回、年少児クラス12回

給食便り(毎月)、ほけん便り：年12回

県PTA連合会会報：2回、PTAしんぶん：12回、あんふあん：12回

(3) インターネット・ホームページ：幼稚園の沿革及び業務内容の紹介。

園児活動状況の随時紹介 **Web お便り** 20回、**にこにこ園日記** 41回発行は好評。

また、業務執行・年度状況の報告（財務状況を含む）を公表。

アドレス：<http://www.1907-mkg.com/>

## III 学校評価について

平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表に関する規定が新たに設けられました。

当園では、教職員による業務の自己点検・自己評価は、平成20年度から実施しております。

昨年度は、保護者意向調査を実施し概要を報告しましたが、本年度は教職員自己評価を実施しましたので集約内容を公表します。

また、新制度によって単一施設となり、従来の幼稚園のみに設置されていましたが『学校関係者評価委員会』、及び保育園にのみ設置されていましたが『苦情解決第三者委員会』を、単一施設として両委員会を設置し、令和3年3月19日に、学校関係者評価委員会及び苦情解決第三者委員会と合同で報告会を開催し、本年度の園の運営並びに経過について報告し評価して頂きました。

### 1、令和2年度教職員自己評価の集計と分析

(1) 調査期間 令和2年11月27日～12月11日

(2) ねらい ○ 自分個人の教育・保育活動のまとめと評価及び課題の把握

○ 認定こども園としての教育・保育活動のまとめと評価及び課題の把握

○ 令和3年度の計画立案のための資料

(3) 評価基準

4、良くできている。自分として取り組み満足している 3、出来ている

2、どちらかといえば出来ていない 1、全く出来ていない

## (4) 調査項目と調査結果報告

目	番号	設 問	保育部 13		幼稚園部 15		合計 28	
			計	平均	計	平均	計	平均
1 職 員 意 思 疎 通 及 び 職 員 資 質 向 上	1	職員全員による話し合いを定期的実施している	47	3.6	47	3.1	94	3.4
	2	非常勤職員にも日々の保育に必要な情報が伝えられている	46	3.5	48	3.2	94	3.4
	3	共有された情報は適切に記録保存されている	47	3.6	49	3.3	96	3.4
	4	職員会議に参加できない職員には、会議の様子が伝えられている	47	3.6	46	3.1	93	3.3
	5	職員の引継ぎを適切に行っている	46	3.5	50	3.3	96	3.4
	6	職員が抱えている課題を主幹や指導教諭に伝えている	44	3.4	51	3.4	95	3.4
	7	職員の課題に対して、指導助言を行う仕組みがある	46	3.5	51	3.4	97	3.5
	8	指導助言で得られた解決策を日々の保育にいかそうとしている	46	3.5	50	3.3	96	3.4
	9	保育部・幼稚部・家庭部との連携に努めている。	42	3.2	45	3.0	87	3.1
	10	各種研修会や研究会に積極的に参加し、資質向上に努めている	46	3.5	47	3.1	93	3.3
	11	自己研鑽に努めている	44	3.4	48	3.2	92	3.3
	12	園内研修に積極的に参加し、実践にいかそうとしている	46	3.5	49	3.3	95	3.4
	13	園内研修の企画や実施に対する評価	45	3.5	48	3.2	93	3.3
	計		592	3.5	629	3.2	1221	3.4
2 教 育 保 育 課 程 ・ 指 導 計 画	14	保育課程のねらいや内容は、発達や年齢、個人差を踏まえた内容になるよう工夫している	44	3.4	49	3.3	93	3.3
	15	保育課程は地域の特性や学園の特色を生かしたものにしている	43	3.3	48	3.2	91	3.3
	16	日々の教育保育活動を10の姿を意識して行っている	37	2.8	45	3.0	82	2.9
	17	指導実施評価は毎月定期的に行っている	36	2.8	43	3.1	79	2.9
	18	指導計画の評価や立案はクラス職員で話し合いながら行っている	45	3.5	43	2.9	88	3.1
	19	指導計画の評価は次の計画作成にいかしている	42	3.2	48	3.2	90	3.2
		計		247	3.2	276	3.1	523
3 子 供	20	子どもの要求などに対して適切に対応している	44	3.4	51	3.4	95	3.4
	21	表現力が十分でない子供の気持ちを受け止め、どのように言葉で表したらよいか適切に対応している。	44	3.4	52	3.5	96	3.4

受 容 理 解	22	多様な子どもの興味に合わせ、遊びの素材や環境を工夫している	44	3.4	48	3.2	92	3.3
	23	個々の子どもの育ちの視点や理解に留意している	43	3.3	51	3.4	94	3.4
	24	配慮を要する子に対する指導が職員間で共有されている	44	3.4	48	3.2	92	3.3
	25	0歳から5歳までの子どもの発達の理解に努めている	43	3.3	44	2.9	87	3.1
	26	園報や他のクラス便り・Webにも目を通し、実践にかかしている	43	3.3	47	3.1	90	3.2
	計		305	3.4	341	3.2	646	3.3
4 健 康 状 態 把 握 及 び 健 康 診 断	27	子どもの健康管理に関するマニュアルがある	44	3.4	51	3.4	95	3.4
	28	既往症や予防接種の状況について、保護者から必要な情報が得られるようにしている	44	3.4	49	3.3	93	3.3
	29	感染症等の予防に努めている	47	3.6	55	3.7	102	3.6
	30	子どもの健康状態に関する情報が関係職員に周知されている	48	3.7	53	3.5	101	3.6
	31	子どもの体調悪化・けがなどについて保護者に伝えている	49	3.8	57	3.8	106	3.8
	32	子どもの健康診断は定期的実施されている	51	3.9	55	3.7	106	3.8
	33	子どもの健康診断の結果は全職員に周知されている	44	3.4	46	3.1	90	3.2
	34	子どもの健康診断の結果は保育内容に反映されている	43	3.3	47	3.1	90	3.2
	35	子どもの健康診断の結果は保護者に伝えられている	49	3.8	54	3.6	103	3.7
	計		419	3.6	467	3.5	886	3.5
5 食 事 環 境 ・ 食 育 推 進	36	子どもが落ち着いて楽しく食事ができるよう環境を工夫している	44	3.4	50	3.3	94	3.4
	37	発達に合わせた食事の援助を適切に行うよう配慮している	46	3.5	53	3.5	99	3.5
	38	食べられるものが少しでも多くなるように援助している	48	3.7	53	3.5	101	3.6
	39	職員は子どもの食べる量や好き嫌いを把握している	45	3.5	52	3.5	97	3.5
	40	食育計画を策定している	49	3.8	48	3.2	97	3.5
	41	感謝の気持ちや命を大切にする気持ちを育むよう働きかけている	44	3.4	53	3.5	97	3.5
	42	給食について定期的に職員間で情報交換をしている	45	3.5	52	3.5	97	3.5
	計		321	3.5	361	3.4	682	3.5
6	43	室内の温度、湿度、換気、採光などの環境は適切な状態に保持されている	49	3.8	55	3.7	104	3.7

環境整備	44	園庭の遊具等の安全管理点検が行われている	49	3.8	55	3.7	104	3.7
	45	季節の移り変わりが感じられるような環境構成に工夫している	46	3.5	48	3.2	94	3.4
	計		144	3.7	158	3.5	302	3.6
7 保育活動・人間関係	46	園訓である「常に喜ぶべし」を念頭に入れ保育活動をしている	46	3.5	48	3.2	94	3.4
	47	型にはめない個性の伸長に努めるよう配慮している	44	3.4	50	3.3	94	3.4
	48	順番を守る等、社会的ルールを身につけるよう配慮している	46	3.5	54	3.6	100	3.6
	49	生活や遊びを通して、数や量の感覚が身につくよう工夫している	39	3.0	53	3.5	92	3.3
	50	クレヨン、粘土、紙などを使った活動を取り入れている	44	3.4	53	3.5	97	3.5
	51	絵本の読み聞かせ、お話し、紙芝居などを保育に取り入れている	48	3.7	55	3.7	103	3.7
	52	教具・教材の有効活用に努めている	44	3.4	50	3.3	94	3.4
	53	屋外での活動の場が確保され活用している	44	3.4	50	3.3	94	3.4
	54	子ども同士の関係をよりよくするような言葉がけを行っている	45	3.5	53	3.5	98	3.5
	55	子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるよう働きかけている	45	3.5	52	3.5	97	3.5
	56	発達段階に応じてやる気を育てるような働きかけをしている	45	3.5	51	3.4	96	3.4
	57	異年齢の子ども同士が遊べるよう配慮している	40	3.1	45	3.0	85	3.0
	58	こども園として0歳～5歳児の保育活動の交流に配慮している	40	3.1	40	2.7	80	2.9
	59	諸行事の計画・実施・反省が適切に行われている。	40	3.1	47	3.1	87	3.1
	60	諸行事の記録が適切に保存されている。	43	3.3	47	3.1	90	3.2
	計		653	3.3	748	3.3	1401	3.3
	8 学校関係者評価	61	苦情処理を適切に行っている	41	3.2	48	3.2	89
62		学校関係者評価委員会や苦情処理第三者委員会が開催されている	45	3.5	48	3.4	93	3.4
63		送迎時の会話や連絡帳を活用して子どもの様子を伝えている	45	3.5	46	3.1	91	3.3
64		保育参観を行うなどで保護者と共通理解を得る機会を設けている	37	2.8	39	2.8	76	2.8
65		保護者の相談に真摯に対応するよう努めている	46	3.5	50	3.3	96	3.4

及び 保護 者 と の 連 携	66	保護者の相談内容を記録し、保育活動で配慮できることは他の職員にも伝えている	43	3.3	47	3.1	90	3.2
	67	園やクラス便り・Webを定期的に発行し、情報を伝えている	44	3.4	50	3.6	94	3.5
	68	保護者アンケートを実施し保護者の思いやニーズを把握している	44	3.4	41	2.9	85	3.1
	69	保護者から寄せられた意見を保育活動に活かそうとしている	44	3.4	48	3.2	92	3.3
	70	入所児童又は家族の秘密を他人に漏らしていないか	51	3.9	55	3.7	106	3.8
	計		440	3.4	472	3.2	912	3.3
9 事 故 対 応 ・ 危 機 管 理 ・ 服 務	71	子どもの心身の状態を観察し、虐待等不適切な養育が行われていないか気を付けている	44	3.4	52	3.5	96	3.4
	72	事故や天災等が発生したときの対処方法などマニュアルがある	44	3.4	54	3.6	98	3.5
	73	職員は救急救命法についての研修を受講している	41	3.2	41	2.7	82	2.9
	74	避難訓練を定期的実施している	51	3.9	57	3.8	108	3.9
	75	不審者等侵入防止策(出入り口、通報システム)が講じられている	44	3.4	49	3.3	93	3.3
	76	ヒヤリハット事例を蓄積し、事故を未然に防ぐために活かそうとしている	46	3.5	53	3.5	99	3.5
	77	ゆとりを持って勤務時間に遅れないように努めている	44	3.4	51	3.4	95	3.4
	78	土曜日出勤の振替休日が取得できる	48	3.7	59	3.9	107	3.8
	79	年次有給休暇が取得できる	47	3.6	52	3.5	99	3.5
計		409	3.5	468	3.5	877	3.5	
10 園 の 取 組	80	子育て支援事業の取り組みに対して(トトロハウス等)	42	3.2	51	3.4	93	3.3
	81	英語やダンスで遊ぶの取り組みに対して	42	3.2	51	3.4	93	3.3
	計		84	3.2	102	3.4	186	3.3
			3614	3.4	4022	3.3	7636	3.4
			保育部		幼稚・家庭部		全体	

※ 幼稚・家庭部にある○印は14名の回答。

## (5) 分析

○職員28人による81の評価項目の平均は3.4であった。保育部(13人)が平均3.4、幼稚園・家庭部(15人)が平均3.3で、保育部と幼稚園部との評価の差はないと判断してよいのではないかと。全体の平均が3.4の値は、職員が運営方針を理解し、積極的に取り組み、「自分たちとしては取り組みに満足している」と評価していると判断していいのではないかと。

○課題を明らかにするため、評価点3.0以下の項目について検討する。

○大項目 1 の「職員の意思疎通及び職員の資質向上」は平均が 3.4 で大きな課題はないが、小項目 9 の「保育部、幼稚部、家庭部との連携」には今後も意識して取り組んで行かなければならない。

○大項目 2 の「教育保育課程及び指導計画」の平均が 3.1 で、他の大項目の中で一番低い値であった。中でも、「日々の保育活動を 10 の姿を意識した取り組み」や「指導実施評価は毎月定期的に行っている」、「指導計画の評価や立案はクラス職員で話し合いながら行っている」については、今後も意識して取り組まなければならない。

○大項目 3 の「子供受容理解」は平均が 3.3 で大きな課題はないが、25 番の「0 歳から 5 歳までの子どもの発達の理解に努めている」については今後も意識して取り組んでいかなければならない。

○大項目 4 の「健康面について」、5 の「食事環境や食育」、6 の「環境整備」については、特に大きな課題はないが、29 番の感染症予防や 30 番の健康面の保護者への連絡等では職員には取り組んでいただいた。

○大項目 7 の「保育活動・人間関係」は平均が 3.3 で大きな課題はないが、小項目 58 の「0 歳から 5 歳の保育活動の交流に配慮する」ことは今後も意識して取り組まなければならない。

○大項目 8 の「保護者との連携」で、今年度はコロナ禍で保育参観等できなかった面があり、課題があった。今後この面での工夫と改善が求められる。

○大項目 9 の「事故対応・危機管理・サービス」については平均が 3.5 で大きな課題はないが、小項目の「救急法の職員研修」は 2.9 と低い値を示した。これは昨年と今年度実施していなかったからと考えられる。

1 月の園内研修で実施の予定であるが、コロナ禍のため人数制限があり全職員が受講できない。小項目 79 の「年次有給休暇が取得できる」は今年度新たに加えた項目である。働き方改革で求められている内容である。平均が 3.5 でまずまずであった。

#### (6) まとめ

○全職員の評価項目の平均は 3.4 であった。このことは、職員が運営方針を理解し、積極的に取り組み、「自分たちとしては取り組みに満足している」と判断できる。

○課題としては、保育部・幼稚部・家庭部との一層の連携を図り、0 歳児からの発達理解に努め、保育課程や指導計画の見直し等に努める必要がある。中でも、日々の保育活動を 10 の姿を意識した取り組みを図り、指導計画の立案や評価は複数担任なのでクラス職員で話し合いながら協力的に行っていくようにしたい。これらのことは今年度の重点目標だったので、令和 3 年度も引き続き重視したい。

○今年度はコロナ感染症予防対策で、例年にない任務を職員に課した。職員が相談しあってより良い対策を試行していただいた。職員には感謝したい。保護者の保育参観等中止し、保護者との連携に課題を残した。年度途中からホームページを容易に開けるよう改善を加えたが、今後も改善を図りたい。

○今年度の重点目標であった働き方改革に関連して、土曜出勤の振替え休日、年次有給休暇の取得等では職員が協力して取得しやすい雰囲気づくりに努めていただいた。

## 2、学校関係者評価委員会 苦情解決第三者委員会報告内容

(1) 期 日 3月19日(金) 学園保育室

(2) 出席者

「学校関係者評価委員」

保護者代表 井上 久美子(ふたば会会長)  
高森 奈実(保育部保護者)  
学校評議員代表 高屋 一成 宮手 義和  
学識経験者代表 松本 静毅 高橋 眞司  
地域住民代表 佐藤 彰二 黒澤 淳子

「苦情解決第三者委員会」

沼田 崇子  
田村 幹雄

「内丸学園盛岡幼稚園」

理事長 坂本 洋 園長 坂本 信行  
主幹保育教諭 吉田 房子 指導保育教諭 高村 和江

(3) 会議次第

- 1、開会
- 2、委員のご紹介
- 3、理事長挨拶
- 4、委員長・副委員長選出 ◎委員長 松本様 ○副委員長 高橋様  
～以降 松本委員長司会

5、報告と協議

◎令和2年度の業務運営方針と執行報告

- ・幼稚園事業報告 一年間の様子はパワーポイントで説明
- ・特色ある幼児教育振興事業について
- ・園内研修実施報告 ・園外研修参加実施状況 ・子育て相談集計結果
- ・事故及びヒヤリハットの集計結果・考察 ・園からの情報発信
- ・自己評価の集計と分析・まとめ
- ・令和3年度盛岡幼稚園運営方針と令和3年度学級編成及び園児数について

6、評価内容 質問や感想等をお聞きする

- A・コロナ禍の中でも工夫して保育が進められていたことを感じた。  
・保護者の要望や希望に気づき、吸い上げる形をとっていくことが大切ではないか。
- B・コロナ禍で、安全に健やかに子ども達を育ててきてくれたことに感謝します。  
・苦情解決委員の役割を保護者にはどのような形で周知しているのか？  
・運営方針の具体的対応の中に「連携を図る」ことについて記述されているが具体的内容を示すことも良いと思う。  
・ヒヤリハットや事故について、安全も大事であるが、子どもが年齢相応にわが身を自分で守る、危険に対しての対応を学ぶことも大切ではないか、Tの学びにもなる。
- C・コロナ禍でいろいろな行事が縮小になり残念なこともあったが、できることの中で、子ども達は十分に楽しんで取り組んでいた。これからはワクチンもできるのでコロナに対してエビデンスを持って、その都度、対応していけばいいと思う。
- D・コロナ禍で休園になった園もあったことを聞いたが、盛岡幼稚園ではずっと開所していたので、働く親としてはとても助かった。  
・子どもがやりたいこと、やりたい気持ちを先生たちが大事に尊重し、子どもにとって最善の保育をしてあげていたことに感謝します。(トトロランドなど)

- ・保育部では運動会が中止となったがDVDを作ってくださったことに感謝している。
- E ・コロナ禍ということで地域としての活動ができない状況だった。
  - ・地域の子供会活動も集まりはなしで、という姿勢だったので残念であった。
- F ・コロナ禍の中でやれる工夫をして行事を行っていることはすごい。
  - ・0歳から5歳の発達で、1歳の違いは大きいと思われるので「子どもの育ちにつながる記録」という研修テーマは大切である。
- G ・研修テーマから継続的に記録をとっていくことは大事。 作品展が素晴らしかった。
  - 同じ子が繰り返し怪我をしていた事例があったが、繰り返しの子にはそれなりの配慮が必要である。
- H ・子どもは自然に育っていくものと思っていたが、スライドを見て、先生たちの様々な意図やねらい、配慮があり育っていくことを感じた。
  - ・コロナ禍の中でも子ども達がやりたいという思いを大事にし、できることをやっていたのは素晴らしいと思った。
  - ・薬剤師の環境検査も合格。換気も工夫をしてよくやっていた。
- I ・お店屋さんごっこ（トトロランド）のスライドを見て縦割りの活動が印象的であった。学校の生活科でやる活動でもあり、充実した活動であった。
  - 子どもの思いに沿いながら行っており、将来にむけた活動につながる。
  - 保育部のどろんこ遊びも今できる大事な経験である。思いきりやらせてくれるのはいい。バーチャルの世界ではなく原体験をしてほしいです。
- J ・子育て相談で、相談を待っているばかりではなく、こちら側から声をかけていくと話していたが、本当にその通りでこちら側から寄っていくことが必要だと思う。

#### 7、令和2年度学校関係者評価委員会のまとめ

- ・幼稚園の一年間の事業活動内容をパワーポイントで映像と共に説明を加えて行ったことは、各委員から分かりやすく良かったとの講評を頂いた。
- ・今年度はコロナ禍で活動や行事等が縮小されたが、園児に係る活動行事は予防対策をとって実施したことに対し感謝された。
- ・今年度はコロナ禍で保育参観は年1回だけの開催になった。次年度は保護者との意思疎通を密に図るために、利用者アンケートなど工夫を加えていきたい。なお日常的な園児活動などをリモート活用での報告・発表が今後の課題である。
- ・今年度も苦情解決第三者委員がかかわった苦情や相談はなかった。



#### IV 財務の内容（令和2年度）

##### 1、資金収支計算書

収入の部		
科 目	令和元年度	令和2年度
学生生徒等納付金収入	27,498,713 円	13,275,543 円
手数料・寄付金収入	274,046 〃	291,609 〃
補助金収入	127,071,758 〃	142,678,830 〃
付随事業・収益事業収入	5,387,055 〃	5,545,860 〃
受取利息・配当金収入	1,794,255 〃	1,613,069 〃
雑収入	1,579,250 〃	1,820,090 〃
その他収入(前受、未収金・預り金)	22,947,771 〃	28,446,502 〃
資金収入調整勘定	△6,783,723 〃	△13,559,733 〃
前年度繰越支払資金	72,868,420 〃	69,242,935 〃
<b>収入の部合計</b>	<b>252,637,545 円</b>	<b>249,354,705 円</b>
支出の部		
人件費支出	115,612,065 円	124,990,522 円
教育管理経費支出	29,512,046 〃	30,440,882 〃
借入金等返済・利息支出	0 〃	0 〃
施設・設備関係支出	4,003,828 〃	1,760,167 〃
その他支出(資産運用・預り金・前払)	34,406,431 〃	36,640,746 〃
資金支出調整勘定	△139,760 〃	△151,440 〃
翌年度繰越支払資金	69,242,935 〃	55,673,828 〃
<b>支出の部合計</b>	<b>252,637,545 円</b>	<b>249,354,705 円</b>

##### 2、貸借対照表

資産の部		
固定資産	391,144,406 円	399,759,278 円
流動資産	76,167,538 〃	69,418,281 〃
<b>資産の部合計</b>	<b>467,361,944 円</b>	<b>469,177,559 円</b>
負債の部		
固定負債	4,250,000 円	4,700,000 円
流動負債	0 〃	79,629 〃
<b>負債の部合計</b>	<b>4,250,000 円</b>	<b>4,779,629 円</b>
基本金の部		
<b>基本金の部合計</b>	<b>290,209,100 円</b>	<b>290,907,211 円</b>
消費収支差額の部		
翌年度繰越消費収入超過額	172,902,844 円	173,490,719 円
<b>負債, 基本金, 消費収支差額の部合計</b>	<b>467,361,944 円</b>	<b>469,177,559 円</b>

【注】 ・重要な会計方針の変更、 該当事項なし。 ・減価償却額の累計額の合計: 145,352,420 円